

主任教授からのメッセージ

現在、眼科医の約4割は女性医師です。女性眼科医は眼科医療になくしてはならない存在で、本学においても歴史的に見て重要な役割を果たして来られました。眼科学は外科的な領域と内科的な領域の多数の専門分野からなっており、女性医師にも多様な活躍の場が用意されています。本学眼科でも、多数の女性医師を眼科医として育成してきました。そのため、医局内で女性医師がライフイベントに合わせて柔軟に学び、そして働けるための女性医師のための内規を作成し、サポートする体制をいち早く整えてきました。医局全体でカバーしつつ、女性眼科医を育てる仕組みを作っていますので、是非、積極的に眼科医専門医にトライしていただきたいと思っています。

○ 診療科の特徴

本学の眼科でも、全国同様、女性医師が常勤・非常勤を合わせて、医局（附属病院・総合医療センター・香里病院）の40%を占めています。外科的加療と内科的加療のいずれを選択することもでき、様々な働き方が可能なところが魅力です。全国を見渡しても、教授職や部長職にも女性が多く、実は日本眼科学会会長、日本眼科医会会長も女性です。医局内、病院内にも多くのロールモデルとなる女性医師が必ず身近に存在して、自然に家庭と仕事の両立を楽しめるのではないかと思います。「女性医師が活躍できる場を」と、医局内の男性医師も、「家庭を大切にする」ことに、とても理解を示してくれます。

○ 診療科で働く女性医師

附属病院・総合医療センター・香里病院それぞれ4名、8名、3名で、合計で常勤13名、非常勤務2名の女性医師がいます。このうち、小学6年生までの子育て女性医師は5名です。皆、それぞれのライフスタイルに合わせた勤務形態で、自身が納得のゆく形態を選択して、楽しく両立しています。



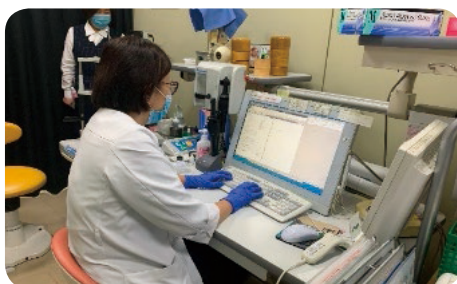
職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産休期間終了日の数カ月前に、教授面談の上、どのような勤務形態で復帰するかは、相談して決定します。産休明けには、大学の内規に従い、勤務を開始します。

（助教、常勤病院助教、短時間勤務正職員扱い病院助教、任期付助教の別に下記項目を設定）

項目：時間外勤務、医局会やカンファレンス参加、手術担当可否、学会参加可否など、内規あり



○ 研修内容

Duty に関しては、無理なく勤務できる環境を整えるため、個別対応も可能です。

また外来のみを行うか、手術を行うか、病棟を担当するか、など、個人の希望に沿った勤務とします。

外来を希望する人には自由参加の医局内勉強会が豊富です。また手術を希望する人には、段階別に上級医が責任をもって指導にあたります。

まず、外来勤務から開始⇒希望者は時期を見て手術の受け持ち・執刀も開始（病棟担当含む）。

同時に、希望に沿って学会発表、論文作成支援、専門医の取得も支援します。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

結婚、妊娠、出産、介護など女性のライフスタイルは年齢とともに変化します。その時々、仕事とうまく両立できれば、それらは人生という幹の枝葉となり、非常に楽しい日々が送れると思います。仕事の悩みは子供が癒してくれます。子供に関する悩みは仕事が励ましてくれます。もちろん無理はいけません。しかしあきらめる必要はありません。個人個人にあったバランスが大切です。関西医科大学には、あなたより少し長く医師人生を経験してきた多くの女性医師がいます。「やってよかったこと」「やらなくて後悔していること」「もっとうまくやればよかったこと」など、伝えたくてウズウズしています。情報は無料です。情報を選択するかどうかはあなたの自由です。どうぞ遠慮なく、ためらいなく、一度オール女性医師キャリアセンターにアクセスしてみてください。

➤ 復帰した医師の声

体験談（A 先生）

眼科入局 6 年目で第一子を出産し、9 年目で第二子を出産、11 年目で第三子を出産しました。

現在、当直免除、定時帰宅のフルタイムで仕事をしています。

職場の方々の育児についての理解が深く、復帰についての不安はありませんでした。

復帰後、外来診察で困った時は相談しやすく、手術も慣れるまで上級医について頂き、スムーズに仕事が出来ました。

子供が病気をした時なども職場の先生と協力しあい臨機応変に対応でき感謝しております。

● 講座ホームページ 関西医科大学 眼科学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/eye/>